

浅間山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

本日（8日）実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたり300トンとやや少ない状態でした。また、機動観測班が実施した降灰調査及び聞き取り調査では、浅間山の北側山麓の群馬県嬭恋村及び長野原町でわずかな降灰が確認されました。

昨日（7日）、小規模な噴火が発生し、火山活動が高まっていることから当面の間、居住地域の近くまで影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

【防災上の警戒事項】

火口から概ね4kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が流されて降るため注意してください。

また、噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

○ 活動概況

・降灰の状況（図1～3）

本日（8日）機動観測班が実施した降灰調査及び聞き取り調査では、浅間山の北側山麓の群馬県嬭恋村及び長野原町でわずかな降灰が確認されました。また、東京工業大学が実施した調査によると、浅間山の火口から北北東約4kmの地点において、約2g/m²の降灰が確認されました。

・火山ガス（図4、図6-②、図7-②）

本日実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたり300トン（前回6月13日、数十トン以下）とやや少ない状態でした。

・噴煙の状況（図5、図6-①、図7-①）

昨日（7日）22時08分の噴火以降、新たな噴火は発生していません。本日の噴煙は白色で、火口縁上概ね700m以下で推移しています。

・地震や微動の発生状況（図6-④～⑧、図7-④～⑧）

地震活動の顕著な活発化は認められていませんが、7日の噴火以降、やや高周波の地震が増加しています。

・地殻変動の状況（図6-⑨⑩、図7-⑨、図8～10）

傾斜計及びGNSS連続観測では、新たなマグマ上昇を示す地殻変動は観測されていません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、関東地方整備局、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び長野県のデータも利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

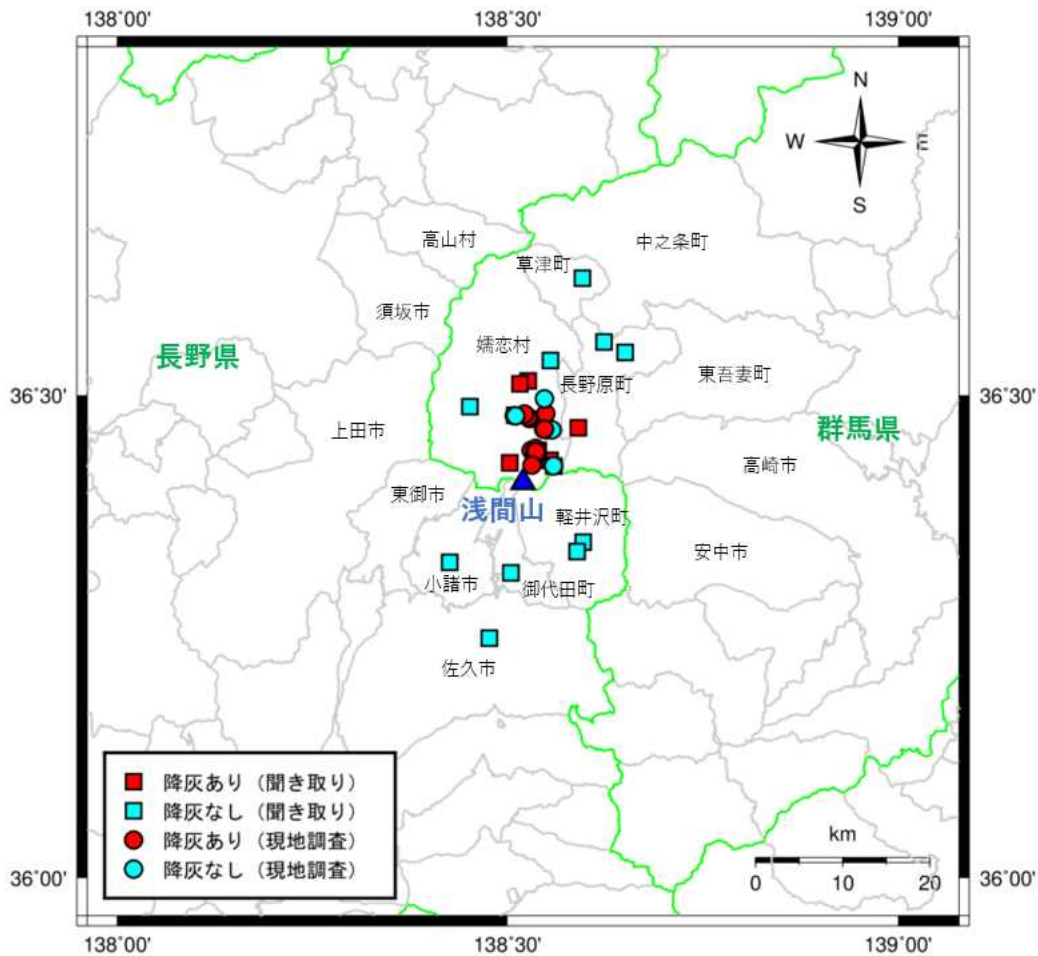


図1 浅間山 降灰分布図（2019年8月8日16時現在）

※上図のデータには、東京工業大学の調査結果も含まれます。

※図中の緑線は県境を表しています。

- ・本日実施した降灰調査及び聞き取り調査では、浅間山の北側山麓の群馬県嬭恋村及び長野原町でわずかな降灰が確認されました。



図2 浅間山 8月7日の噴火に伴う降灰の状況

- ・東京工業大学が実施した調査によると、浅間山の火口から北北東約4kmの地点において、約2g/m²の降灰が確認されました。



図3 浅間山 8月7日の噴火に伴う降灰の状況

- ・本日、機動観測班が実施した降灰調査で、浅間山の北北東4km付近で降灰を確認しました。

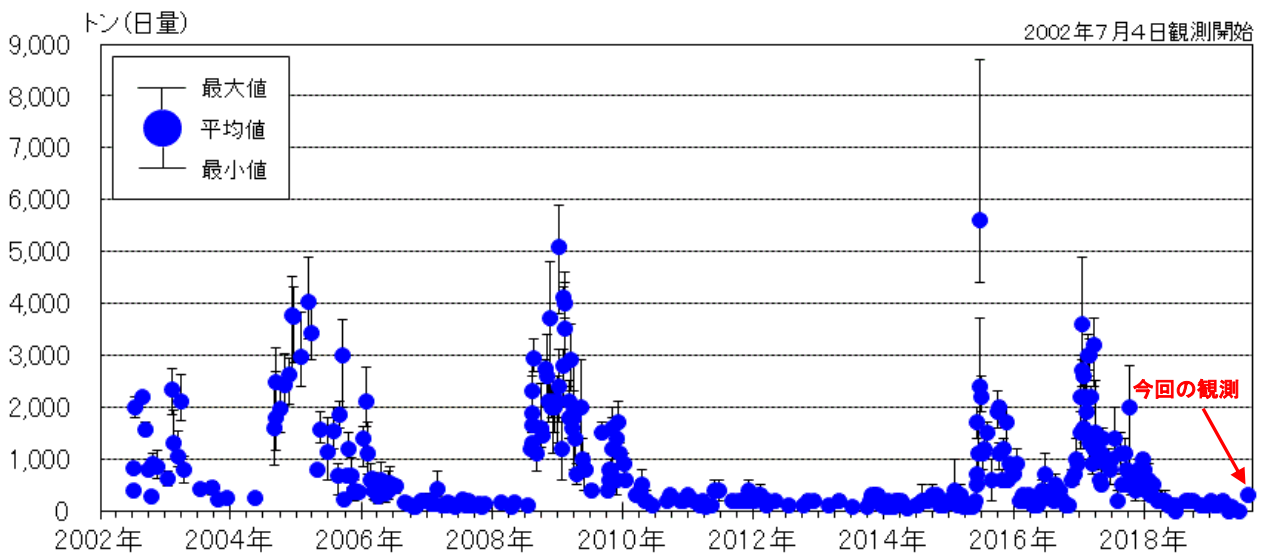


図4 浅間山 二酸化硫黄放出量（平成14年7月4日～令和元年8月8日）

- ・本日実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたり300トン（前回6月13日、数十トン以下）とやや少ない状態でした。



図5 浅間山 山頂部の状況（鬼押監視カメラ（長野県）（8月8日））

- ・本日の噴煙は白色で、火口縁上概ね700m以下で推移しています。

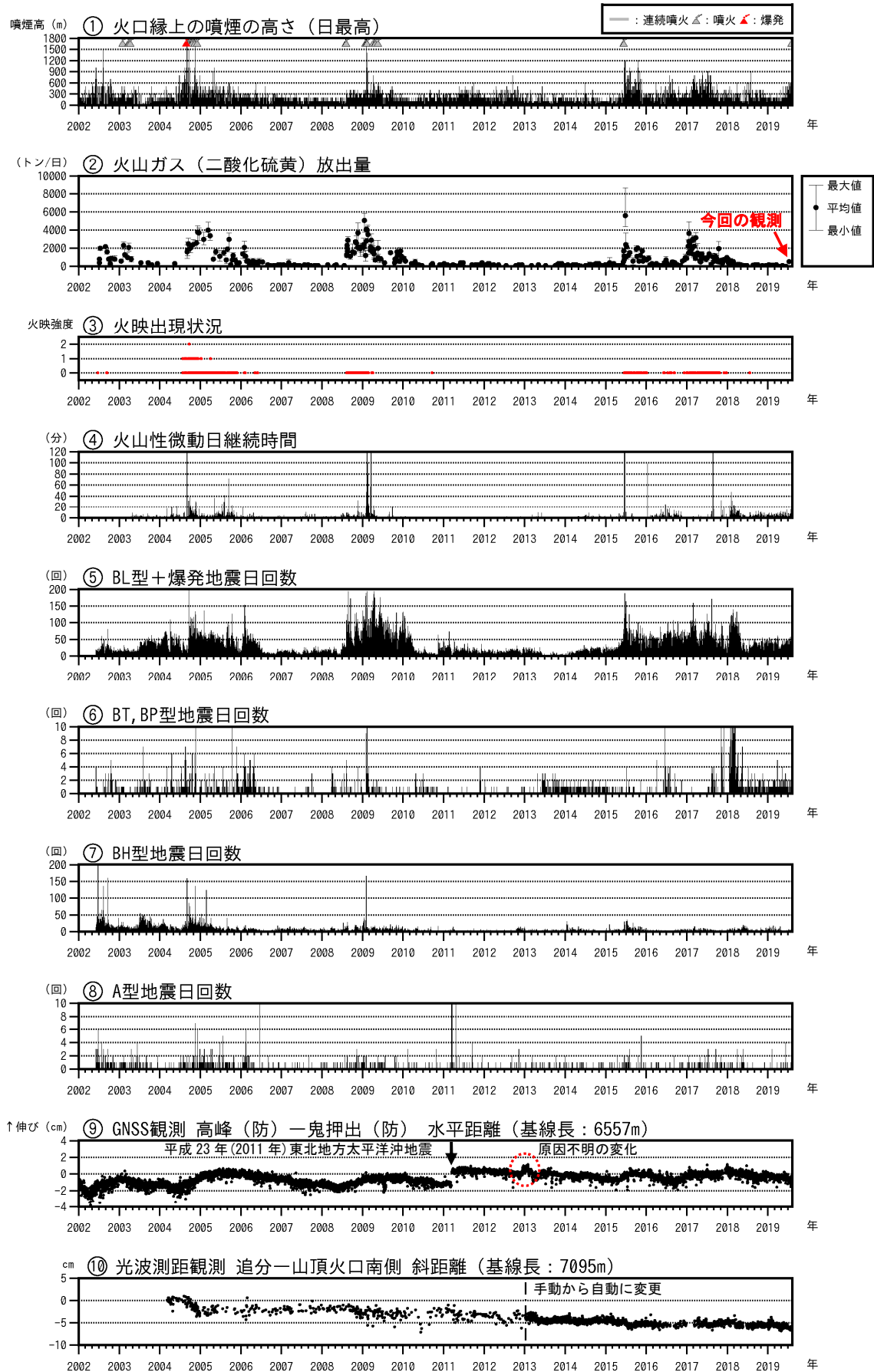


図6 浅間山 火山活動経過図（2002年1月1日～2019年8月8日）

※図の説明は次ページに掲載しています。

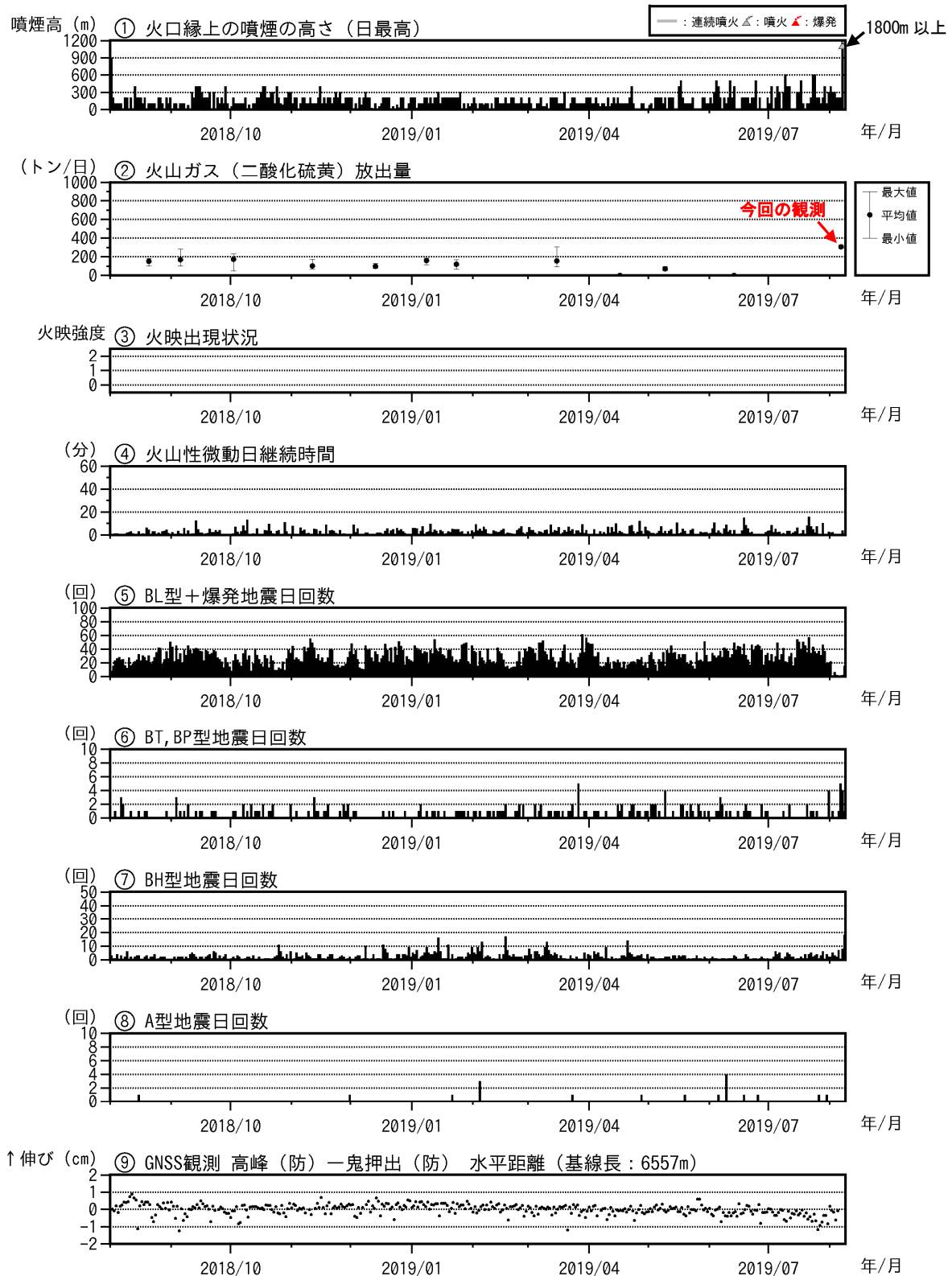


図7 浅間山 最近の火山活動経過図（2018年8月1日～2019年8月8日）

図6及び図7の説明

計数基準は石尊観測点で最大振幅0.1 μ m以上、S-P時間3秒です。

図6②、図7② 国立研究開発法人産業技術総合研究所及び東京大学による観測結果が含まれています。

図6③、図7③ 赤印は火映を示します。強度については、以下のとおりです。

0：肉眼では確認できず、高感度の監視カメラでのみ確認できる程度 1：肉眼でようやく認められる程度
2：肉眼で明らかに認められる程度 3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度

図6⑨、図7⑨ 2012年7月31日まで 気象庁の高峰一鬼押出観測点間の基線長（基線長7417m）。

2012年8月1日以降 防災科学技術研究所の高峰一鬼押出観測点間の基線長。

2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています。

（防）：国立研究開発法人防災科学技術研究所

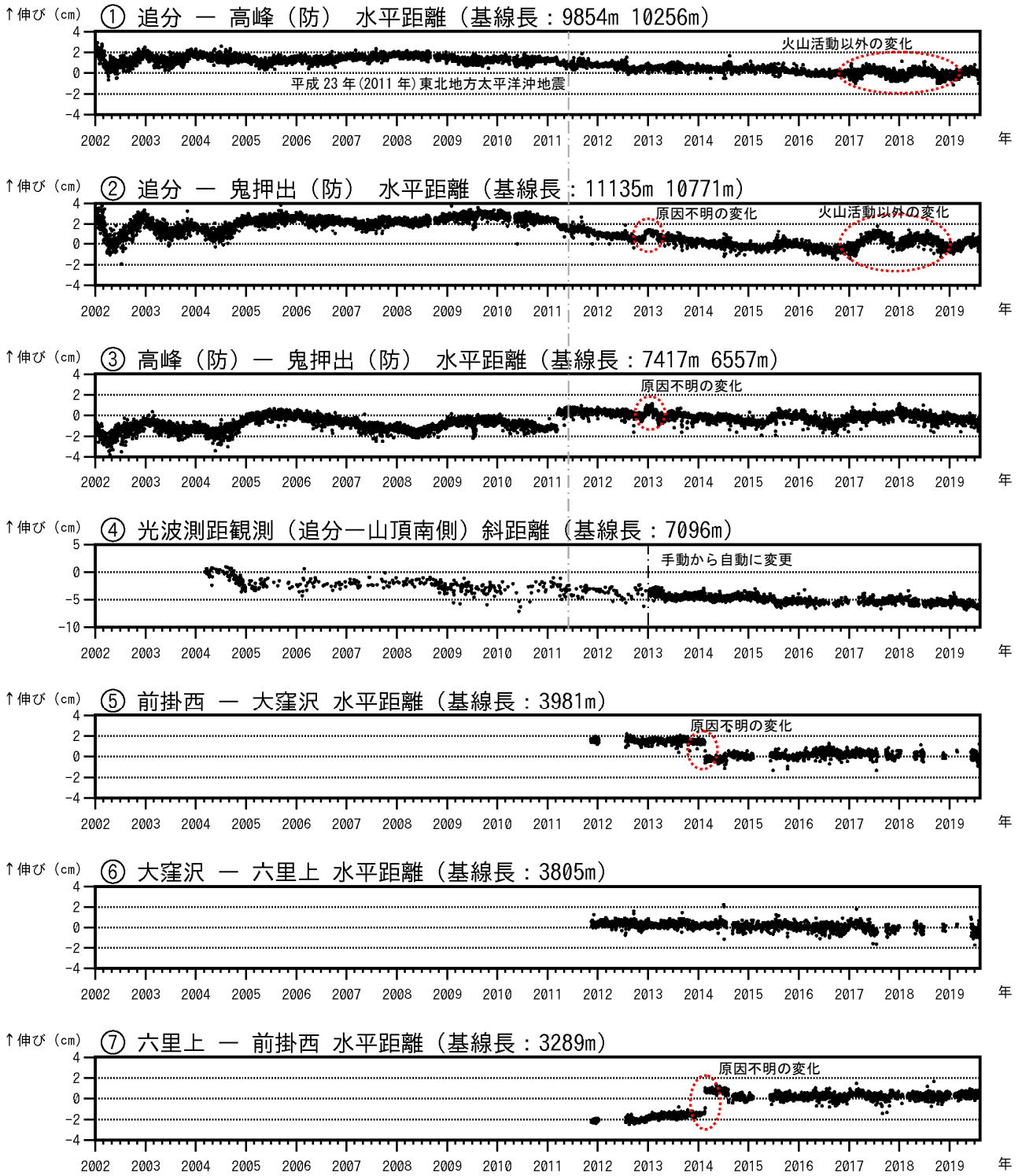


図8 浅間山 GNSS連続観測及び光波測距観測の結果(2002年1月1日~2019年8月8日)

2010年10月及び2016年1月に、解析方法を改良しています。

(防): 国立研究開発法人防災科学技術研究所

①~⑦は図9の①~⑦にそれぞれ対応しています。

①②追分観測点は、2016年12月に移設しています。

③2002年1月1日~2012年7月31日 気象庁の高峰—鬼押出観測点間の水平距離。

2012年8月1日~ 防災科学技術研究所の高峰—鬼押出観測点間の水平距離。

①~⑦の空白部分は欠測を示します。



図9 浅間山 地殻変動連続観測点配置図

(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所、(国)：国土地理院
 GNSS 基線③は図6、図7の⑨に対応しています。また、GNSS 基線①～③及び⑤～⑨は図8の①～③及び⑤～⑨にそれぞれ対応しています。
 光波測距測線④は図6の⑩、図8の④に対応しています。

噴火

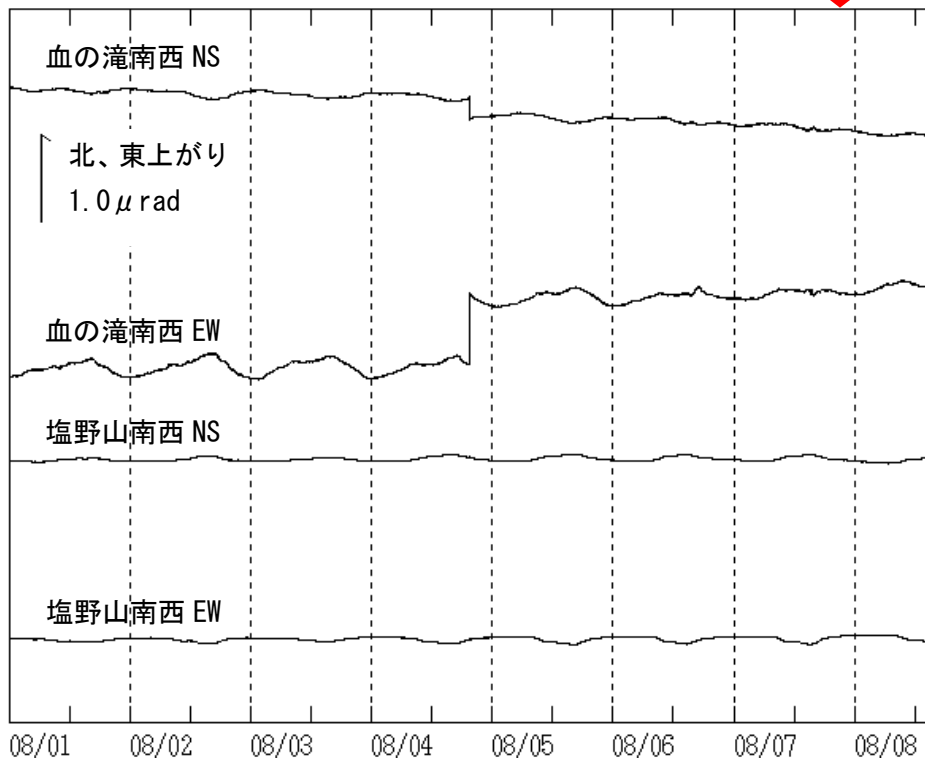
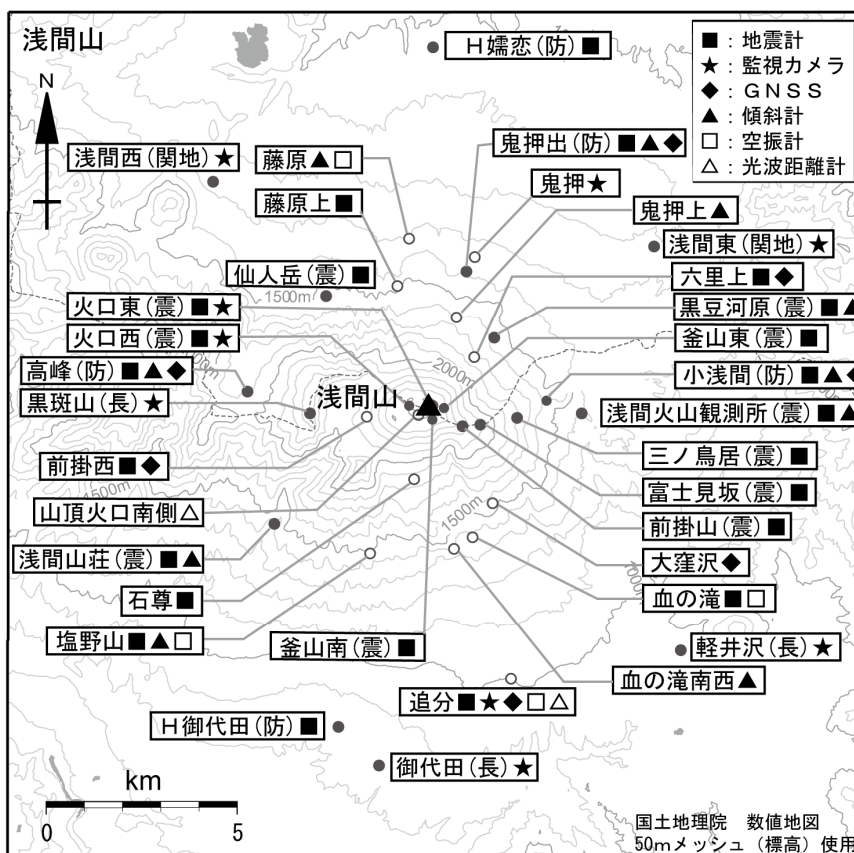


図10 浅間山 血の滝南西及び塩野山南西観測点における傾斜データ
(2019年8月1日~2019年8月8日)

・火山活動に起因すると考えられる変化は認められません。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、
(関地)：関東地方整備局、(長)：長野県

図11 浅間山 観測点配置図